

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	尼崎市立あこや学園		
○保護者評価実施期間	令和7(2025)年12月4日		～ 令和7(2025)年12月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和7(2025)年12月3日		～ 令和7(2025)年12月11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 9
○訪問先施設評価実施期間	令和7(2025)年12月4日		～ 令和7(2025)年12月12日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8(2026)年2月9日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先で丁寧なフィードバックができています。	・必要に応じ、個人情報保護に十分に配慮した上で、撮影した訪問時の映像を用いて報告書を作成している。	件数が増えた場合にも同等のサービス提供ができるよう、丁寧かつ効率的な方法を検討する。
2	支援内容や記録の情報を施設長、副施設長、児童発達支援管理責任者、担当職員で共有できている。	・訪問開始前に、担当の訪問支援員と児童発達支援管理責任者で打ち合わせを行うなど、チームで連携した取り組みを徹底している。 ・アセスメントや訪問記録、個別支援計画などの記録は、訪問後迅速に情報共有している。訪問時間、記載時間を鑑み、必要に応じた勤務調整なども行っている。	現状の取り組みを、丁寧に継続していく。IT化の充実により情報の共有を効率化する。
3	保護者のニーズに対応した支援	・保護者と懇談の時間をとり、支援内容や姿を共有している。保護者が面談に参加できないときも報告書、電話で伝えている。 ・勉強会、研修への参加を呼びかけている。	研修については、参加には至っていないので、情報を伝える方法の検討などさらなる工夫が必要である。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援管理責任者と一緒に訪問する方法で、経験の少ない職員が訪問支援を経験したが、そのような機会を持つことは少ない。	支援時に同行ができればと思うが、訪問人数が多くなると訪問先施設、対象児童にも負担が大きくなる	・法人内の他施設との連携で知見を広げ、スキルアップを図る。 アフターケアが訪問支援につながるという視点でとらえ、訪問支援員一人ひとりの意識をより高める。 ・継続して、ロールプレイなどイメージしやすい方法で研修を実施する。
2			
3			